

List of Exhibits

No	Title	Artist/Produced area	Material	Century	Size(cm)	Collection
1	Writing box, decorated in maki-e lacquer with design of deer	OGI Seisai (1879-1959)	lacquered wood	Japan, 20th century	H. 3.7 D. 21.8×19.5	Matsunaga Collection
2	Tea bowl known as "Jikkoku", kofuki type		pottery	Korea, 15th-16th century	H. 7.8 D. 14.7	Matsunaga Collection
3	Tea bowl, ko-unakaku style celadon		porcelain	Korea, 14th century	H. 10.1 D. 12.7	Matsunaga Collection
4	Du Zimei, famous Chinese poet	Attributed to Sesshu (1420-1506) Inscription by Ten'in Ryutaku(1422-1500)	ink on paper	Japan, dated 1498	79.6×16.9	Matsunaga Collection
5	Eggplant	OGATA Kenzan (1663-1743)	ink on paper	Japan, 18th century	20.0×27.6	Matsunaga Collection
6		Maeda Seison (1885-1977) Inscription by MATSUNAGA Yasuzaemon(1875-1971)	ink on paper	Japan, dated 1962	62.3×31.1	
7	Scene from The Tale of Genji	Attributed to TAWARAYA Sotatsu (?-?)	color on paper	Japan, 17th century	31.8×28.6	Matsunaga Collection
8	○ Story of In-dainagon picture scroll	Artist unknown	ink on paper	Nanbokuchō period	19.3×80.2 (woman) 19.3×140.6 (man)	Matsunaga Collection
9	Plum blossoms	Attributed to OGATA Korin (1658-1716)	gold and silver on paper	Japan, 18th century	66.5×37.6	Matsunaga Collection
10	Tea bowl known as "Oizuru" Karatsu ware	Karatsu ware	pottery	Japan, 16th-17th century	H. 8.4 D. 14.4	Matsunaga Collection
11	Lid rest	MATSUNAGA Yasuzaemon(1875-1971)	bamboo	Japan, 20th century	H. 5.4 D. 6.1 H. 5.4 D. 5.0	
12	Tea scoop and case, known as "Odawara"	MATSUNAGA Yasuzaemon(1875-1971)	bamboo	Japan, dated 1958	L. 18.1	
13		Karatsu ware	pottery	Japan, 17th century	H. 5.1 D. 17.2×17.9	
14	Tea caddy, known as "Kirishima"	Uchigaso kiln, Takatori ware	pottery	Japan, 17th century	H. 9.1 D. 6.5	
15	Fan with a waka verse from Shin-kokinshū and design of paulownia	HON'AMI Koetsu (1558-1637) TAWARAYA Sotatsu (?-?)	Japan, 17th century		16.7×49.2	
16	Shrimp	Sengai Gibon(1750-1837)	ink on paper	Japan, 17th century	37.5×48.0	
17	Sweet flag	Ziting (14th century)	ink on paper	China, 14th century	22.4×33.8	Matsunaga Collection

松永耳庵と福岡ゆかりの品々

Matsunaga Jian and Art Work Associated with Fukuoka

会期 2024年10月29日(火)-2025年1月26日(日)

会場 松永記念館室



出品No.7 伝・俵屋宗達《源氏物語図》

松永耳庵は、茶の湯をとおして福岡ゆかりの実業家や美術家と交流しました。本展では、松永コレクションを中心に福岡ゆかりの人びとにまつわる作品をご紹介します。

(学芸課 宮田太樹)

おおぎろどう 仰木魯堂(1863~1941)・政斎(1879~1959)

福岡県遠賀郡（現在の中間市）出身。仰木魯堂は建築家、政斎は木工家として兄弟で活躍しました。いずれも茶人としても有名で松永耳庵をはじめ、多くの近代数寄者と交友を持ちました。

政斎が手がけた《鹿文蒔絵硯箱》（作品1）は、蓋表に頭を下げて水を飲む5頭の鹿、蓋裏および身の内部には「有明の月待やどの袖の上に人だのめなるよひの稻妻」（『新古今和歌集』）という和歌があらわされています。これは、益田鈍翁が所蔵していた、俵屋宗達、本阿弥光悦による《鹿下絵和歌巻》（現在は断簡となりシアトル美術館ほかに分蔵）から絵と文字を写したもの。鈍翁はこの和歌巻を本歌とした蒔絵硯箱をいくつか作られており、作品1はその内の1つです。本作が耳庵に譲られたのは、昭和12年（1937）のことです（『黄林閣蔵品帳』）。

耳庵のコレクションには魯堂・政斎の旧蔵品が少なくありませんが（作品2,3,4）、その多くは耳庵が茶の湯を始めて間もない時期に蒐集されました。

魯堂・政斎は耳庵が特に信頼していた茶人で、政斎が記した茶会記である『雲中庵茶会記』には、耳庵の茶事が多く記録されています。

だんたくま 團琢磨(1858~1932)・伊能(1892~1973)

團琢磨は筑前国福岡荒戸町（現在の福岡市中央区荒戸）出身の実業家、その子息の伊能は福岡県大牟田市出身の美術史家、実業家です。どちらも茶人としても有名で琢磨は狸山、伊能は疎林庵と号しました。

琢磨は、仰木魯堂に依頼して、根岸の松平邸にあった堂を自邸に移築し、松滴庵と名付けてしばしば茶事を催しました。松永耳庵と琢磨は実業家同士、懇意にしていたようですが、耳庵が茶の湯を始めたのが、琢磨が亡くなった後であったため、両者に茶の湯を通じた交流はありませんでした。

耳庵がはじめて團家の茶会に参加したのは、昭和11年8月20日のことで（「仙石原 団家茶会」『茶道三年』）、琢磨の妻、芳子の招きによってでした。この茶会で耳庵は、後に自身の蒐集品となる尾形乾山筆《茄子図》（作品5）との出会いを果たしています。茶室の床にかかっていた本作を目にした耳庵は、「二つの茄子は此健筆の間に挿まれて影薄く思って居る。誠に見事な一軸で」と感想を記しています。耳庵は本作が大変気に入っていたらしく、自分が蒐集した後には、前田青邨とともに乾山幅を本歌とした《なれ茄子》（作

品6）を合作しています。

芳子が亡くなった後、子息の伊能が初めて茶会を催した際にも耳庵は招かれており（「團疎林庵初陣」「わが茶日夕」）、茶の湯を介した團家との交流は継続していました。松永コレクションに團家旧蔵品がいくつか含まれているのも（作品7,8）、こうした縁によるものなのでしょう。

うちもとこうすけ 内本浩亮 (1885~1977)

内本浩亮は、福岡を代表する茶人、経済人の一人です。慶應義塾大学を卒業後、九州水力電気区部式会社の創立に参加し、九州送電社長、日本発送電理事などを歴任したほか、宗韻と号する茶人でもありました。耳庵の妻、一子とは親戚であったため、古くから知遇を得ていました。

発電所建設を進めようとした浩亮は、ある時、耳庵の支持を取り付ける為、埼玉の別荘、柳瀬荘を訪れます。その際、耳庵は織部の沓茶碗（《黒織部沓茶碗 銘「鶴太郎」》（東京国立博物館蔵）のことか？）に自ら茶を練りながら浩亮の話に耳を傾けたといい、結果、耳庵が支持したことで、発電所は完成したといいます（「見初められた一子夫人」『松永安左エ門翁の憶い出（上）』）。電力業界に身をおく茶人であった両者に相応しいエピソードと言えるでしょう。

茶人・浩亮に対する耳庵の信頼は相当に厚かったようで、耳庵が亭主として仰木政斎をもてなした際の茶器の選定（作品9,10）を浩亮に任せているほか（「松下軒耳庵翁を訪」『雲中庵茶会記』昭和26年1月15日条）、自作の茶道具を送ってもらっています（作品11,12）。

浩亮は茶道具の蒐集にも熱心で、《絵唐津沢潟文四方皿》（作品13）、《耳付茶入 銘「霧島」》（作品14）といった九州の茶陶や、俵屋宗達が下絵を描き、本阿弥光悦が和歌を書いた《桐下絵新古今集和歌扇面》（作品15）は、浩亮の旧蔵品を代表する作品です。

福岡ゆかりの品

耳庵と福岡のゆかりを示す作品としては、福岡を代表する名僧・僊厓義梵（1750~1837）による《海老図》（作品16）や江戸時代に福岡を治めていた黒田家に伝來した《石菖図》（作品17）などもあります。

耳庵が茶道具蒐集を始めた時、拠点は関東でしたが、実業家として大成するきっかけをもたらした福岡への愛着は持ち続けていたようです。

出品作品リスト

No	作品名	作者名・産地	品質	時代世紀	法量(cm)	コレクション
1	鹿文蒔絵硯箱	仰木政斎(1879-1959)	木胎漆塗	現代 20世紀	高3.7 縦21.8 横19.5	松永コレクション
2	粉吹茶碗 銘「十石」		陶器	朝鮮王朝時代 15-16世紀	高7.8 口径14.7 高台径5.3	松永コレクション
3	古雲鶴筒茶碗		磁器	高麗時代 14世紀	高10.1 口径12.7 高台径6.3	松永コレクション
4	杜子美図	伝・雪舟(1420-1506) 天隱竜沢(1422-1500)賛	紙本墨画	室町時代 明応7年(1498)	縦79.6 横16.9	松永コレクション
5	茄子図	尾形乾山(1663-1743)	紙本墨画	江戸時代 18世紀	縦20.0 横27.6	松永コレクション
6	なれ茄子	前田青邨(1885-1977) 松永安左エ門(1875-1971)賛	紙本墨画	現代 昭和37年 (1962)	縦62.3 横31.1	
7	源氏物語図	伝・俵屋宗達(生没年不詳)	紙本着色	江戸時代 17世紀	縦31.8 横28.6	松永コレクション
8	○ 尹大納言絵詞		紙本墨画	南北朝時代	縦19.3 長80.2(女巻) 縦19.3 長140.6(男巻)	松永コレクション
9	金銀泥梅花図	伝・尾形光琳(1658-1716)	紙本金銀泥	江戸時代 18世紀	縦66.5 横37.6	松永コレクション
10	古唐津茶碗 銘「老鶴」	唐津焼	陶器	桃山時代 16-17世紀	高8.4 口径14.4 高台径6.8	松永コレクション
11	竹蓋置	松永安左エ門(1875-1971)	竹	現代 20世紀	高5.4 径6.1(炉用) 高5.4 径5.0(風炉用)	
12	茶杓 銘「小田原」 共筒	松永安左エ門(1875-1971)	竹	現代 昭和33年 (1958)	長18.1	
13	絵唐津沢潟文四方皿	唐津焼	陶器	桃山時代 17世紀	高5.1 口径17.2×17.9 高台径5.0	
14	耳付茶入 銘「霧島」	高取焼 内ヶ磯窯	陶器	江戸時代 17世紀	高9.1 脇径6.5 口径3.6	
15	桐下絵新古今和歌扇面	本阿弥光悦(1558-1637)書 俵屋宗達(生没年不詳)下絵	紙本金銀泥 着色、墨書	桃山時代 17世紀	縦16.7 横49.2	
16	海老図	僊厓義梵(1750-1837)	紙本墨画	江戸時代 17世紀	縦37.5 横48.0	
17	石菖図	子庭(14世紀)	紙本墨画	元時代 14世紀	縦22.4 横33.8	松永コレクション

・○は重要美術品をあらわします。
・都合により展示作品を変更する場合があります。